

明和町では、梨農家の後継者育成を視察しました。ここでは、梨への熱意をとあ



シティブロモーションに大変力を注いでいますが、20年ほど前から梨の産地としての存続の危機を懸念し、新規就農者の獲得や農家子弟の経営継承への支援に取り組んでいます。

梨栽培は、熟練した技術を要し、経営が成り立つまで複数年かかるため、梨農家の高齢化や後継者不足は、梨農家単独での取組では解決できず、梨産地共通の課題となっています。

当市においても、歴史ある白岡の梨を存続させるため、県や民間企業などと協力・連携して後継者育成に取り組むことが重要であると考えます。

渋川市では、多面的機能支払交付金の活用を視察しました。この八



崎第三地区環境保全協議会では、地元の有志が先導して組織を立ち上げ、地域の方も協力して、地区の環境保全や景観美化、遊休農地活用に取り組まれており、多面的機

能支払交付金を有意義に活用しています。

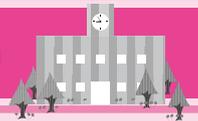
農地は洪水調整機能、環境機能をあわせ持ち、農業は食糧やコミュニティ活動などに関する学習機能を持っています。

農地や農業、それにまつわる機能をうまく活用して、地域の国土環境を保全していくことは誰もが負担すべきことであります。個人所有の農地管理という概念はありますが、その枠を超えて地域環境を整えていくことも必要であり、そのための一つの手法である多面的機能支払交付金制度を、市はさらにPRして推進を図るべきであると考えます。また、地域をよくしていくためには、コミュニティのまとまりも大切であり、リーダーの存在が必要であります。今後は、人材発掘・育成なども課題であると考えます。

現在建設中の八ッ場ダムでは、河川管理を視察しました。ここは、利根川水系の大規模水害を防ぐため、重要な役割があります。近年、異常気象が頻繁に発生し、集中豪雨の発生頻度はさらに多くなると考えられます。もはや、異常気象は常態化しつつあるとさえ感じます。当市においても、降雨状況によっては大規模災害発生への恐れがあることから、減災に備えて河川の泥さらいやのり面の強化、土手のかさ上げなどを行い、豪雨災害・水害に対する防災力を高めていくべきであると考えます。



議会で南中学校を視察（エアコン導入設置事業）



9月14日の定例会終了後、9月から稼働をはじめた小・中学校へのエアコンの設置状況の確認を南中学校において実施しました。

機器の概要説明を受けた後、エアコンが稼働している教室を視察しました。子どもたちから、「体育で汗をかいた後、とても快適です。」との声がありました。また、運用についての要望などが出されました。

エアコンはリース契約を結んだ業者が設置し、期間は13年間で、金額は、8億8,891万7,328円なので、年額は6,837万8,256円になります。市内10の小・中学校に設置されたエアコンの台数は333台です。快適な学習環境を確保するために設置されました。

